

活用事例	2 休み時間に地震が発生した場合の避難訓練 【特色】 緊急地震速報の活用、危険予測学習（防災）との組み合わせ		
学校名	上関町立上関小学校		
日時	平成25年11月21日（木） 業間時間・3校時		
場所	校舎内・運動場	参加者	児童・教職員

1 訓練のねらい

- 業間時間に地震が発生した場合に、どこにいても、地震の揺れから身を守る場所を瞬時に見つけ、その後、指示した場所に落ち着いて避難できるようにする。
- 地震発生時における教職員の役割分担が組織的に機能するようにする。

2 訓練の概要

<防災教室Ⅰ>

各教室での事前指導

- 直ちに火気の使用を中止する。
- はじめの揺れをより安全な場所で頭部を保護してやり過ごして待つ。
(机の下、落ちてこない・倒れてこない場所)
- はじめの揺れが収まったら、(避難放送を聞き)安全に留意して指定場所(運動場)に避難する。
「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」の約束を守る。
(頭部と足裏の保護、窓や屋根、垂れた電線や地割れから離れた経路)
- だまって安全に避難する。

<防災教室Ⅱ>

- 教職員の配置
2校時終了後、教職員は児童の避難行動を確認するため、教室、廊下、運動場等、決めておいたポイントに待機する。
- 地震発生
★緊急地震速報(大きな揺れが来る前の予測)音声を放送する。
①訓練開始の放送
②緊急地震速報
アラーム音「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」
③地震による揺れ発生(揺れの効果音)
④避難行動開始放送

(3) 避難

①避難放送(避難場所を運動場)

「強い揺れが収まりました。児童・教職員は、周囲の状況に注意しながら、直ちに自分のいる場所から一番近い出口から外に出て、運動場に避難しなさい。出るときは、できるだけ建物から離れて避難しなさい。」

- 教職員は、役割ポイントにおり、児童が安全に避難したことを確認し、集合場所に向かう。



- 児童を整列させ、点呼をとる。(担任)
・行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長に報告する。
- その他の役割
・児童の手当て(養護教諭)
・教育委員会への連絡(事務主査)
・情報収集(教頭)

- *学校施設の破損、火災の発生等はないか。
- *運動場までの避難経路に問題はないか。
- *運動場に亀裂や液状化はないか。
- *津波等、二次災害の情報はないか。

⑤指導講評(校長)



<防災教室Ⅲ>

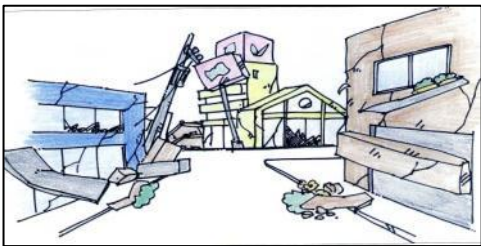
(1) KYT学習

①東日本大震災について

写真を見せながら、地震・津波の怖さや被害の甚大さを知る。(5枚)



②災害安全KYT資料を活用する。(6枚)
(2枚目の例)



下校中、強い地震が発生しました。今揺れはおさまっています。けがはありません。

- T: どんな危険が考えられますか。
C: 壁が落ちてくる。
C: 電線が垂れてくる。
C: 地震があつて、もっとくずれてくる。
T: この後、どのように行動しますか。
C: 走って家に帰る。
C: もっと広い場所へ急いで行く。
T: どのようなことに気をつけますか。
C: 物が落ちてくるので、建物から離れて歩く。
C: 道路に落ちている物に気をつけて歩く。

指導事項

- ・割れた窓ガラス、切れた電線、壊れたブロック塀等の危険物に十分気をつける。
- ・通学路付近の避難場所は、事前に確認しておく。
- ・家族で、避難場所を確認しておく。
- ・自分にとって都合の悪い情報は、「大丈夫」というように思わず、余震や津波の発生も予想して避難することの大切さを理解させる。



(2) 事後学習

各教室で避難の態度を振り返り、次に生かすように指導する。

教室で読書をしていたら、放送が入りました。まるで、心臓がつぶれそうなくらい緊張しました。初めに机の下にかくれ、揺れがおさまるのを待ちました。先生たちが真剣にしているのを見て、本当の地震が起きたように思いました。

危険予測学習もして、とても自分のためになりました。地震が起きたときは、物が落ちてきそうにない場所で、低い姿勢のままじっとしておくことができました。

避難訓練の後は、体がとても重かったです。(5年男子)

3 訓練の成果と課題

「生きる力」を育む防災教育～防災対応能力の育成～推進のためには、児童に考えさせることや判断させる場面を設定することが必要である。そこで、今回のような避難訓練やKYT学習を実施することにした。

【成果】

- ◇ 緊急地震速報を活用することで、学校の先生が放送するのと違った緊張感の中で避難訓練を実施し、真剣に取り組むことができた。
- ◇ 児童は、自分がいる場所から、どの経路で避難するのが安全かを考えたり、友達と助け合ったりする等の主体性が見られ、体験を通じた実践的な訓練であった。
- ◇ 事前に避難訓練について指導することで児童が落ち着いて行動することができ、いざというときに役立つと考えられる。
- ◇ KYT学習により、自分自身が危険に気づいたり、友達の意見を聞いて気づいたりすることで、安全意識を高めることができた。
- ◇ 教職員の役割分担をしておくことで、戸惑うことなく児童への指導にあたることができた。

【課題】

- ◆ 校内だけの訓練であったので、専門家による指導を取り入れたり、保護者と連携したりして充実を図りたい。
- ◆ 本校は、少人数であり、全体指導が効果的であるが、各学年、安全指導年間計画に従って多方面にわたる安全指導を行っていくようにしたい。
- ◆ 危機管理マニュアルを基にした教職員研修を定期的実施し、教職員が落ち着いて対応できるようにしたい。